

第1回地震等災害被害予測調査検討有識者会議での主な意見への対応

番号	項目	意見の内容	対応（※資料番号は第1回会議のもの）
1	災害想定について	桜島の海底噴火に関して、なかなか知見がないなかで11津波として調査を発注すると、計算が11に限られてしまう不安があるため、地震の大きさや津波の想定を変えてはどうか。	【資料2-2】想定地震（津波）等の設定（案） 前回調査から海底噴火の発生箇所について新たな知見が得られていないため、前回調査の箇所でも調査を進めてまいりたい。
2		トカラ列島近海について、火山の活性活動はあるが、活火山というものではないニュアンスの想定が必要。 桜島の海底噴火について、東側については安永噴火の時の海底隆起と海底噴火で津波が起きているが、北側は前回調査時にどういう経緯で想定に入れたのか承知していないため、検討に加わっていききたい。	【資料2-2】想定地震（津波）等の設定（案） 前回調査から海底噴火の発生箇所について新たな知見が得られていないため、前回調査の箇所でも想定を進めてまいりたい。 なお、前回調査の箇所（北側）は、マグマだまりの直上であったため、設定いたしました。
3		南海トラフ地震について、最大クラスの地震を考えることがメインである上で、半割れについて、東又は西の半割れで住民の行動、ライフライン企業や行政の行動についてメッセージを出すのであれば半割れの検討もあって然るべき。 被害が大きすぎて、被害と災害対応力のバランスが完全に失われてしまう最大クラスの地震だけでなく、過去3回、4回と高頻度で起きている比較的起こりやすい南海トラフ地震については考えなくて良いのか。	【資料2-2】想定地震（津波）等の設定（案） 半割れ地震に係る被害想定も実施予定で考えているが、詳細については、今後の会議でお示ししていきたい。 県としては、地域における過去最大級の地震を想定し、調査を進めてまいりたい。
4		今回新たに、十島村の地震想定についても提案があった。6月21日から発生している群発地震に関連しているものであるが、防災に関して非常に有用な情報を与えると思うので、是非検討いただきたい。	【資料2-3】十島村における地震の想定について 従来の想定地震等13地点及び市町村直下の地震に加え、今回のトカラ列島近海の地震活動を踏まえ、悪石島・小宝島付近を新たに想定に加えてまいりたい。
5		新たな地震の想定に際し、火山活動に伴うものか否か、はっきりとしないことには分からないことであると承知した上で、地震中心に検討するのは現実的である。しかし津波を考えないことは想定をしていないだけであり、まるで津波は起こらないことが分かっているといった誤ったメッセージとして伝わらないように慎重に議論を深めていく必要がある。	【資料2-3】十島村における地震の想定について 想定結果の公表に際し、趣旨を正確に住民に伝えることができるよう取り組みたい。
6		沖縄県の被害想定を見ると、南西諸島海溝など過去の八重山の津波を想定している。鹿児島県の離島部においては、沖縄県近郊で発生する津波により大きな影響を受けるのではないのか。	【資料2-2】想定地震（津波）等の設定（案） 沖縄県に近い奄美においてはマグニチュード8クラスを想定している。 沖縄本島東方沖でマグニチュード8.8の地震と、本県が設定している奄美群島太平洋沖地震のマグニチュード8.2の地震について、被害の大小を比較した上で、対応について検討してまいりたい。

番号	項目	意見の内容	対応（※資料番号は第1回会議のもの）
7	調査項目について	令和7年5月から盛土規制法（宅地造成及び特定盛土等規制法）が始まったが、関連をどう考えるか気になっている。（想定の中に）宅地造成地はあるが、盛土規制法の（対象となる範囲で宅地造成地以外の）一部で盛ってあるところも関係してくるのではないか。	【資料3】調査の想定項目（案） 被害想定の手法の際に検討していきたい。
8		被害シナリオを作ると思うが、例えば死者数を算定する時に十数年前の被害想定と異なり人流データがあり、住民ではない方たちが最も多く訪れるタイミングはどの時期なのか、民間企業のデータを使えば簡単に把握できる。能登で感じたのは、そこに住んでいる方たちが中心となり防災が進むのではなく、故郷を思う家族が里帰りした時に、家具を固定する、住宅の耐震化の話をするとか、住んでいる人以外も巻き込んで防災が進むという、関係人口を念頭においた防災の取組は重要。それも鹿児島県独自に考えるシナリオとして入れるべきかもしれない。	【資料3】調査の想定項目（案） 本県の地域特性を踏まえた被害想定項目や、被害シナリオについては、今後の会議でお示ししてまいりたい。 帰省客や関係人口も含めた方への防災意識の普及啓発については、普及啓発資料の内容や周知方法を検討してまいりたい。
9		前回の調査結果を見ると、シナリオで想定するシーンとして、都市部を想定した内容となっていると思われる。鹿児島県の事情・特徴（畜産、半導体など）を踏まえた調査を行うことに、県が独自に被害想定をする意義があると思うので、県の状況に合わせたシーンの設定や被害想定項目の追加を行う必要がある。	【資料3】調査の想定項目（案） 本県の地域特性を踏まえた被害想定項目や、被害シナリオについては、今後の会議でお示ししてまいりたい。
10		南海トラフ地震では、津波の影響等で港湾の使用が困難になり、離島への船が出しにくくなると思われる。その場合、離島がどのくらいの期間、本土とのアクセスがなくなるか。例えば物や食糧等が運べない状況が起こりうるのか、定量的な想定は難しいと思うが、そういった想定も必要である。	【資料3】調査の想定項目（案） 離島の被害想定については、水上輸送ルートの評価や、物資の備蓄状況等についても、被害シナリオ等に盛り込む方向で検討してまいりたい。